

23区の清掃工場で最も高い煙突を持つ豊島清掃工場。地域のランドマークにもなっている

東京二十三区

清掃一部事務組合

快適な暮らしを支える清掃工場

「清掃工場でごみのゆくえを追ってみませんか」

各家庭から出るごみは、可燃ごみ、不燃・粗大ごみ等に分類され、決められたごみの収集日に出されます。収集された可燃ごみ、不燃・粗大ごみは、東京二十三区清掃一部事務組合（以下、「清掃一組」という。）の21か所の清掃工場（建替え中の工場を含む）、2か所の不燃ごみ処理センター及び1か所の粗大ごみ破碎処理施設で焼却や破碎などの中間処理が施され、最終処分場へと向かいます。それぞれの施設では、周辺環境に合わせた施設運営が行われています。今回は、その中からいくつかのおすすめスポットを紹介します。

23区の子清掃工場の現在

各家庭から収集された可燃ごみがどのような流れで中間処理されるのかを知っている人は少ないのではないのでしょうか。

清掃工場へ搬入後、どのような処理が行われているのかを知るにはやはり清掃工場へ行って見学することがおす

すめです。清掃工場では、地域の周辺環境に十分に配慮した対策が取られているだけでなく、緑化環境を整え敷地内に遊歩道を設けたり、近代的なデザインや色彩を工夫しています。

それでは、特徴ある清掃工場を紹介します。

清掃工場あれこれ「特徴ある施設」

◆飛行機も間近にみられる
大田清掃工場

平成26年9月にしゅん工した大田清掃工場は、ごみ質の均一化や高温焼却といった焼却管理によりダイオキシン類の発生を抑制し、さらに最新鋭の公

害防止設備を設置することにより、周辺環境に配慮した近代的で新しい施設です。

見学者通路では、実物大の焼却炉模型が設置されるなど見学設備が整っており、清掃工場の仕組みがわかりやす



23区の清掃工場



平成26年9月にしゅん工した大田清掃工場(左)。実物大の焼却炉模型(下)もあってわかりやすい。展望台では目の前に飛行機の離着陸も見られる



す。

人を歓迎してくれます。道を歩くと、設置された人感センサーにより、自動的にクラシック音楽が流れるようになっていま

く理解できるようになっています。

大田清掃工場は京浜運河に面しており、対岸には羽田空港や城南島などがあります。清掃工場内には展望スペースがあり、周辺の景色を望むことができます。特に、羽田空港に離着陸する飛行機が間近に見られることも清掃工場見学の楽しみの一つと言えます。

なお、大田清掃工場の煙突は、羽田空港に近いことから、航空法の規定により約47mとほかの清掃工場と比べて低く設計されています。

◆音楽の小道を歩こう 墨田清掃工場

墨田清掃工場は、近くに旧中川が流れ、「すみだ健康ハウス」が隣接している場所にあります。また、外構デザインについては、「音楽の町」「下町」「川のある町」という墨田区の特徴にあわせて施されています。

空高く伸びる煙突は、縦笛がモチーフになっています。そして、その横を通る敷地内の遊歩道「音楽の小道」にはラッパや指揮者の像などゆかいなオーケストラの仲間たちが並んでおり、訪れ

清掃工場は地下3階から地上6階まで大規模な設備が複合されています。

見学者のために棟の2階にある自由見学通路から水平移動するだけで主要な設備を見学できるように設計されています。自由見学通路には、要所に説明パネルなどが設置されているので、案内者がいなくても自由に見学できるようになっています。墨田清掃工場は、申し込みなしで自由に見学ができる23区内の清掃工場の中で唯一の施設です。※自由見学ができるのは、月曜日から土曜日までの午前9時から午後3時30分までです。10名以上での見学は、団体見学となりますので電話予約が必要です。

◆23区内の清掃工場で一番高い煙突 豊島清掃工場

豊島清掃工場はJR山手線、埼京線などが通る池袋駅から徒歩10分の場所にあり、近くには首都高速道路5号線が通るなど、都心のまち並みに極めて近い場所にある清掃工場です。

豊島清掃工場の高くそびえる煙突は周辺地域のランドマークにもなっています。高さは210mと23区内の清掃工場の中で最も高い煙突になっています。これは、近隣の高層ビルなどの景観に配慮したためです。

豊島清掃工場は利便性が高く、見学した帰りには池袋駅周辺でショッピングや食事を楽しめるという点で、ほかの清掃工場に比べ立地に恵まれていることも大きな特徴です。

◆そのほかの清掃工場

紹介した清掃工場のほかにも、地下深く建設されている清掃工場(北清掃工場・練馬清掃工場)や国内最大規模の焼却能力を持つ清掃工場(新江東清掃工場)など、それぞれの施設が特徴を持っているので、清掃工場を巡ってみるのはいかがでしょうか。

また、足立清掃工場や板橋清掃工場



墨田清掃工場は、工場見学だけでなく指揮者やラッパの像がある「音楽の小道」にも寄ってみよう。小道を歩くとクラシック音楽が流れる



豊島清掃工場（右）と国内最大規模の焼却能力を持つ新江東清掃工場（下）。見学して比較するのも面白そうだ



◆清掃工場を見学するには？

では、毎年春になると広い敷地内に桜が咲き誇ります。そこで、この時期に桜探訪を兼ねた清掃工場見学会やお花見用の緑地を開放して区民の人たちなどに親しまれています。こうした機会に一度訪れてみるのも良いでしょう。

紹介した清掃工場を含め、施設の見学をしたい場合は事前に各清掃工場に

電話で申し込みをする必要があります（墨田清掃工場を除く。P.6参照）。

個人見学会は毎月1〜2回、主に土曜日に開催しており、申し込みは開催日の2日前までとなります。

小・中学校、町会・自治会、企業など10名以上の団体やグループでの見学は、平日に実施しており、3か月前からの受付となります。

なお、清掃工場によっては、自由に利用できる緑地やステップガーデンを設けているところもあり、それらは事前申し込みが必要ありません。

これから身近な存在に

23区のごみ量は平成元年の約490万tをピークに減少し続けています。平成26年度は約278万tで平成25年度約282万tと比較して3・3万t（1・2%）減少となりました。しかし、現状のままでは23区のごみの最終処分場はあと50年しかもたないと言われており、今後も最終処分量の削減が求められています。

清掃一組では、平成27年度からの新たな取組として、清掃工場で焼却の際に発生した焼却灰（ごみを燃やして発生した燃えがら）をセメントの原料とする取組を始めました。

これまで焼却灰について、一部は溶融処理によりスラグ化し、有効利用を図っていましたが、東日本大震災後の電力需給のひっ迫への対応や今後のスラグ利用の見直しを考慮し、溶融処理を縮小し、セメント原料化により最終処分量の削減を図ることとしました。初年度は5000tの計画量ですが、今後順次拡大していく予定です。

清掃工場では、800度以上の高温で24時間休むことなく連続してごみを焼却しており、焼却に伴って発生した

熱を利用して、発電や高温水などにより周辺施設への熱供給を行っています。また、温水プールや区民センターだけでなく、新江東清掃工場や板橋清掃工場のように熱帯植物館へ熱供給をしている清掃工場もあります。

このように清掃一組が管理する清掃工場は、ごみの中間処理を行うだけでなく、廃棄物から資源・エネルギーを回収し有効利用するなど循環型社会の一翼を担っています。

私たちが社会生活を送るうえで、清掃工場はごみ処理や資源の有効利用という重要な役割を担っています。これからも、ごみが滞りなく処理されるよう、私たちは減量や分別へより一層意識を高めることが大切です。



焼却時に発生する熱や焼却灰の再利用も進んでいる。焼却灰を原料とするセメント（上）熱を利活用する東京都夢の島熱帯植物館（右）



*スラグとは、焼却灰を1200度以上の高温で溶解し、急速に冷やすことでできる砂状の物質です。